

地域における 抗菌薬適正使用の取り組み

静岡県立静岡がんセンター感染症内科
静岡県AMR部会委員長

倉井華子

静岡がんセンターの紹介

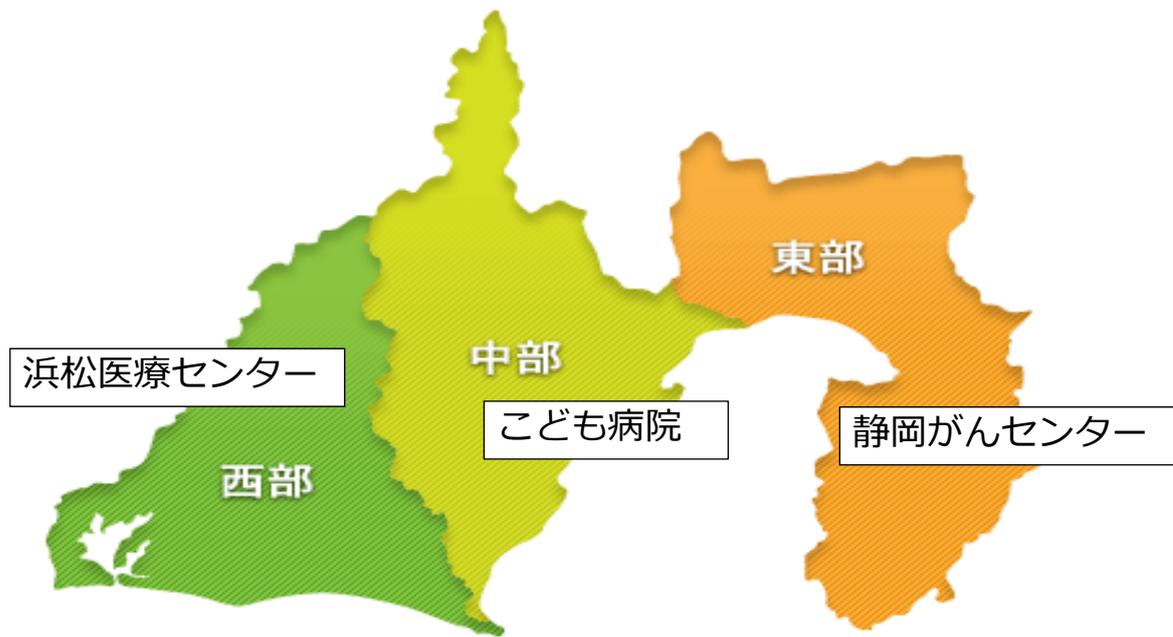
2002年開院

病床数：615床

がん患者の割合：95%



静岡の感染症文化

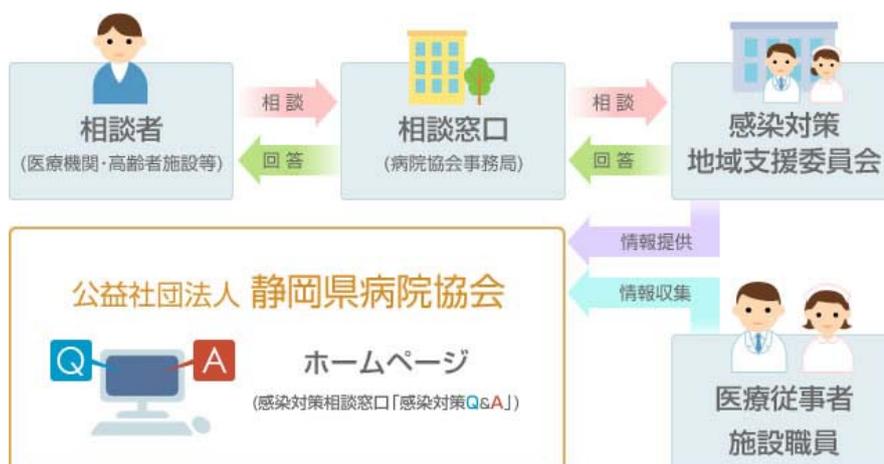


ICN、薬剤師、細菌検査技師の連携も強い地域

公益社団法人静岡病院協会：感染対策部門

年2回の研修会

「感染対策相談窓口」の設置

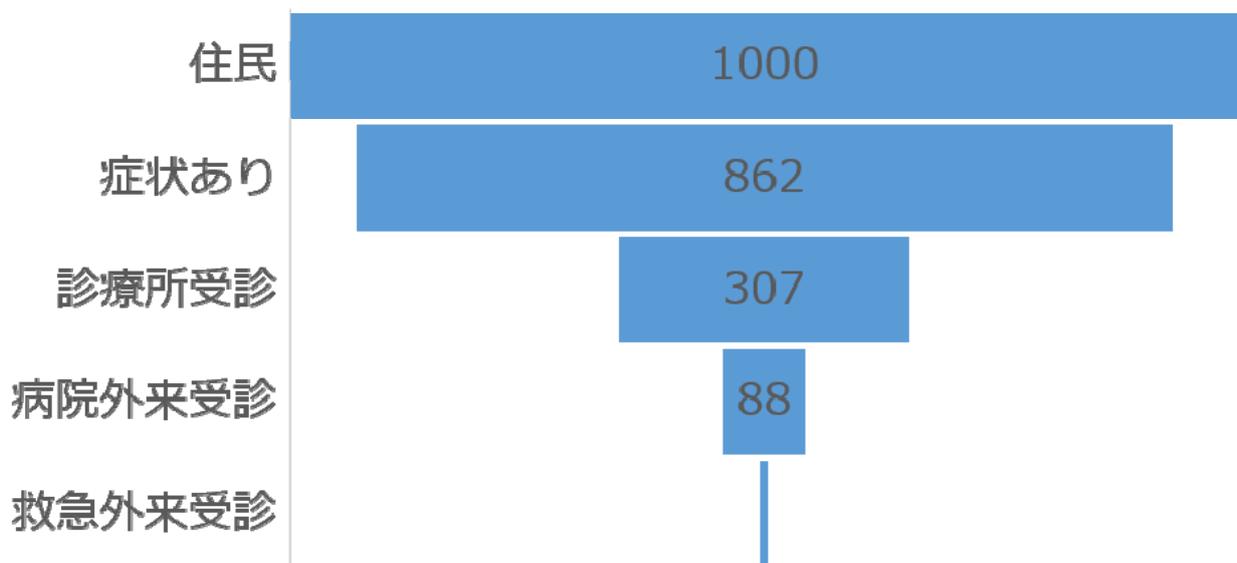


静岡県抗菌薬使用量

	静岡	全国
全体	15.0	14.7
経口		
セファロスポリン	3.11	3.32
マクロライド	5.09	4.56
フルオロキノロン	2.85	2.75
静注用抗菌薬	0.96	1.03
経口ペニシリン	1.21	1.22
ST合剤	0.35	0.31

都道府県別抗菌薬販売量集計データから抜粋
<http://amrcrc.ncgm.go.jp/surveillance/index.html>

患者の受診行動

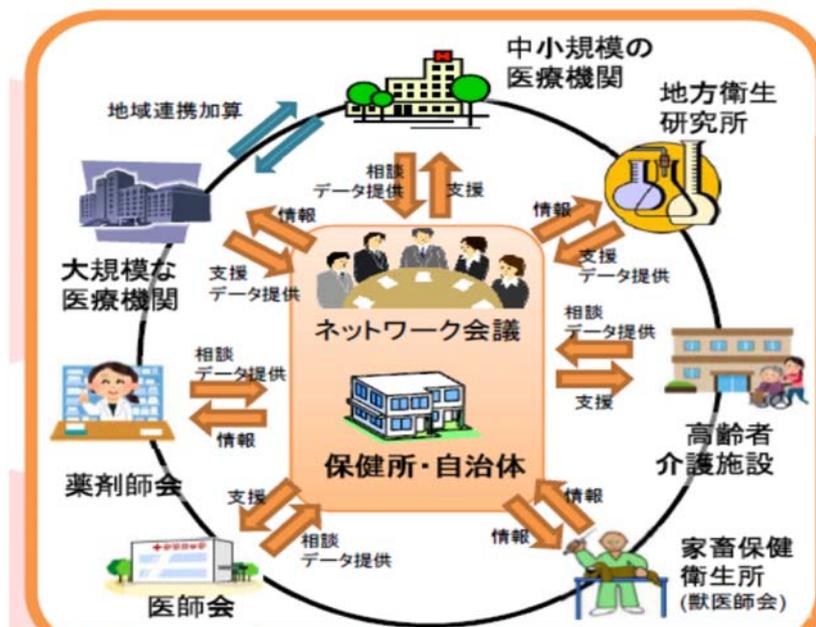


行政との話し合い

- 2016年県内病院でのCREアウトブレイク
 - 原因究明・対策・教育
- 病院/地域全体の教育（抗菌薬適正使用、感染対策）
- 問題発生時、地域サポートする体制づくり

県疾病対策課と共通認識ができた
アクションプランが追い風に

地域ネットワークの理想型



AMRアクションプランより

形作るには時間がかかる
イメージがわからない

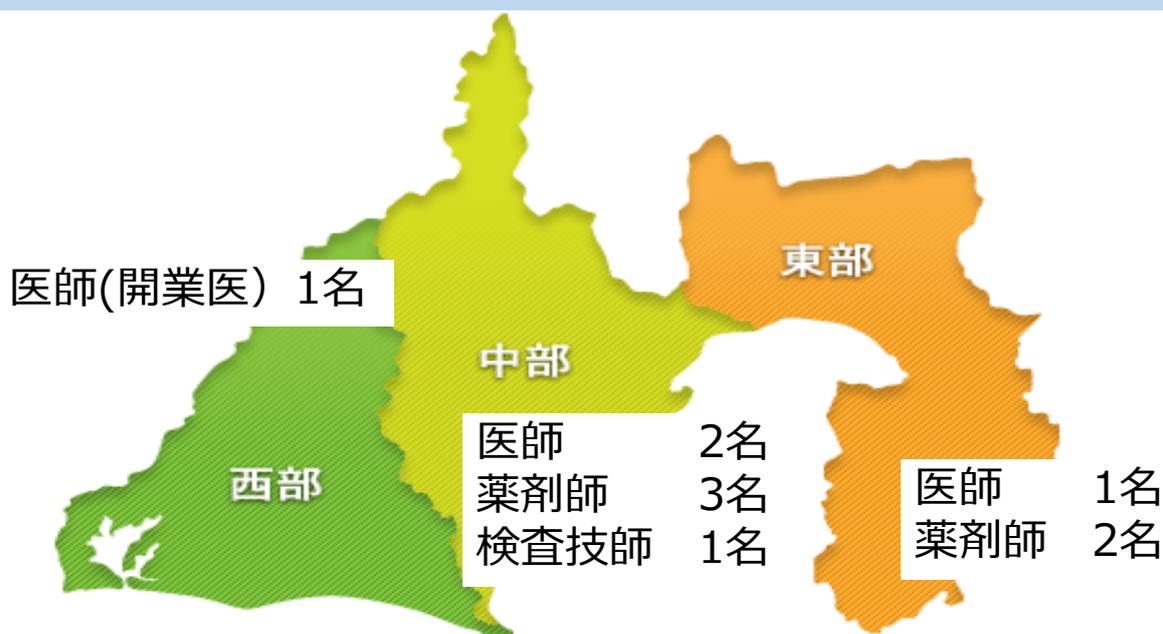
まずは有志でできることから

静岡県薬剤耐性菌制御チーム

Antibiotic Awareness, Shizuoka (AAS)

2017年3月発足

3地域、多職種で構成



静岡県健康福祉部疾病対策課 1名
AMR臨床リファレンスセンター1名

第1回の会議内容

- ・ 未開発分野の洗い出し
- ・ 労力 vs 効果→対象を決定
- ・ 今後の課題

活動の主軸

- ①開業医の啓発活動
- ②市民啓発活動
- ②耐性菌/抗菌薬サーベイランス
- ③感染対策支援の強化

医師会への働きかけ

静岡県内の医師、薬剤師、県庁で耐性菌や抗菌薬適正使用を推進する活動を始めました。医師会の皆様にも情報を届けたいと思っています。

具体的には以下の3つをお願いしたいと考えています。

- 1) 誌面での周知：耐性菌と抗菌薬適正使用の紹介・解説
- 2) 講演会・勉強会開催：

生涯教育や研修会で抗菌薬や耐性菌についてお話する機会をいただけないでしょうか？

- 3) 群市医師会にも同様のお願いをさせていただいてもいいでしょうか？

人脈＋繰り返すこと

静岡県医師会

2017年8月・2018年8月 全体研修会

2018年9月 母子保健研修会

ラジオ放送2回



医師会への働きかけ

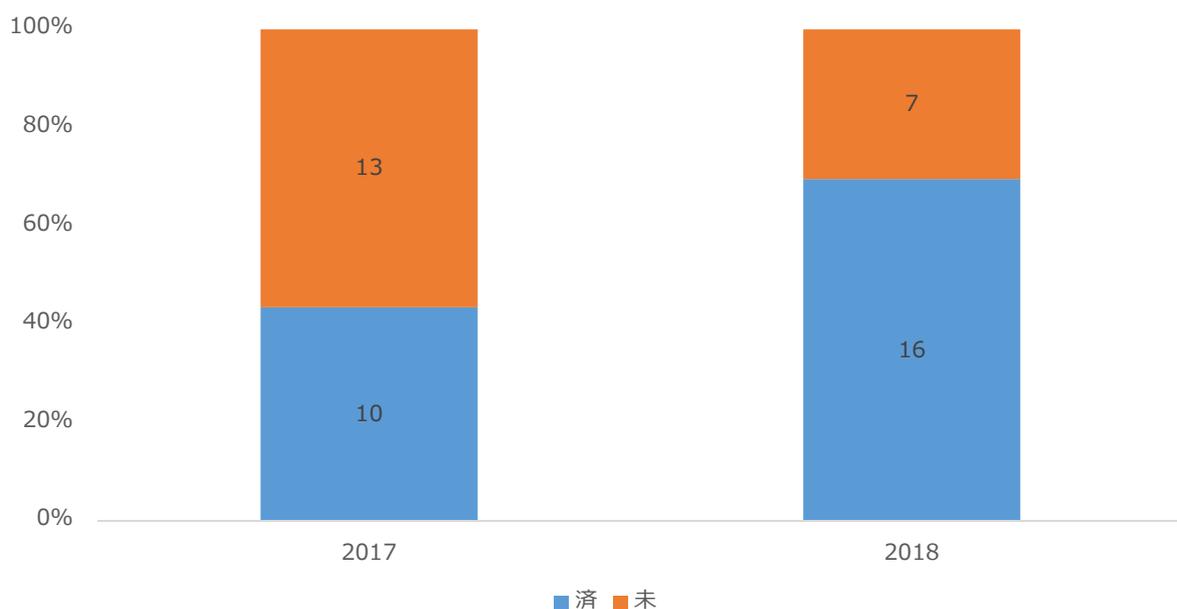
近年薬剤耐性菌対策は国際的にも重要な課題となっており、本年度の診療報酬にも抗菌薬適正使用が加算に組み込まれました。

私どもは2017年より県全域で薬剤耐性菌の取り組みを始め、本年度より行政の部会として設置されました。近年麻疹やダニ媒介性疾患などの感染症が地域でも問題となっています。多くの方に感染症や抗菌薬について知識を深めていただくことが目的の一つです。

私どもに貴医師会の研修会や会報での情報共有の機会をいただければと存じます。抗菌薬適正使用に問わず、感染症各論や感染対策、今話題の感染症についてなどご希望に沿ってお話いたします。

定期的に各医師会と連絡

群市医師会：研修会/広報(累積)



手紙と人脈と飲み会

静岡市医師会の取り組み

感染症研修会 年2回

会報連載 月2回

夜間急患センターの採用抗菌薬削減

-小児7薬剤→4薬剤(AMPC, CAM, CEX, セフトラム)

-成人7薬剤→5薬剤 (AMPC, CAM, LVFX, CEX, FMO
予定)

沼津医師会も同様の取り組みを検討中

市民啓発：ラジオ

杏林シンポジア



市民啓発：イベント



来場者数 2000人

今年度は3月に静岡市でイベント参加

その他の啓発活動

調剤薬局の薬剤師勉強会

各種学会や研究会での発表

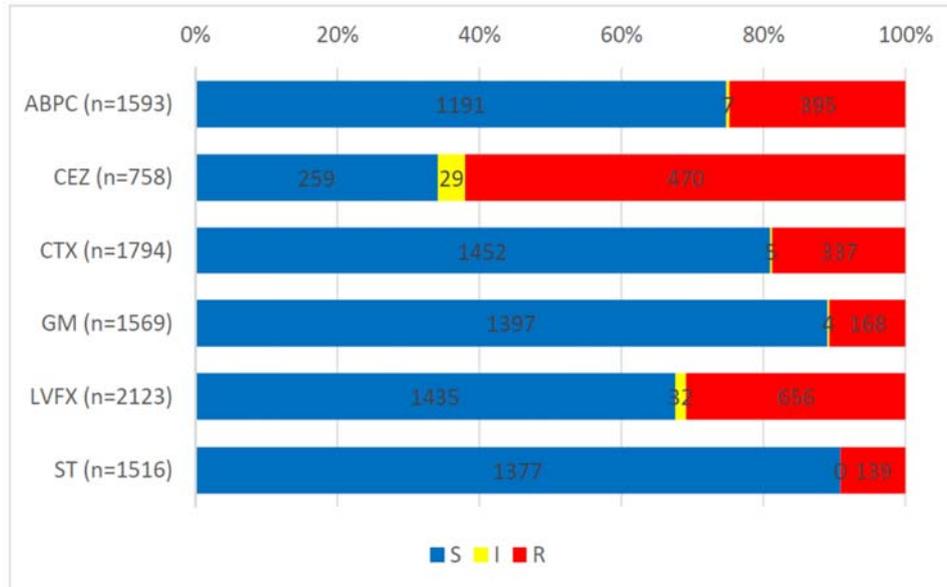
社会保険審査協議会の講演

ワクチン啓発勉強会

歯科医師会の勉強会

アンチバイオグラム作成 (同意を得た24施設のデータ)

【E. coli】



附随研究

静岡県東部地域の病院における 採用抗菌薬の現状



AMR臨床リファレンスセンター
日馬 由貴

問題点

- ・ 忙しい
- ・ 予算がない
- ・ 非公式な組織（トラブル時の補償/大きな団体を動かすには力不足）
- ・ 無関心な相手へのアプローチ
- ・ 情報公開する媒体がない

いただいた要望

- ・ 忙しい外来で、特殊な感染症についてすぐに情報を得られる**ツール**や**ネットワーク**が欲しい
- ・ 抗菌薬を**うまく使う**ための手引きがほしい
- ・ **ママさん会**や**イベント**の出展依頼
- ・ 「感染症」「耐性菌」という言葉が**難しい**
- ・ **アウトカム**を出してほしい
- ・ **レセプト**で切られないようにしてほしい

2018年度の動き

今までの活動継続に加え

AMR部会を県の組織に設置（秋）

発生動向調査委員会

AMR部会

医師(感染症、小児科、医師会)
薬剤師（病院、調剤）
検査技師（病院、衛生研究所）
行政（県庁）

AMR部会とAAS

	AMR部会	AAS
組織	行政組織 AASの数名 + a	有志の集団
役割	<ul style="list-style-type: none">・ AASが作成する資料の承認・ ホームページ公開・ サーベイランスに必要な情報提出を依頼	<ul style="list-style-type: none">・ サーベイランス・ 啓発活動・ 診療補助ツールの作成

薬剤耐性 (AMR) 対策について

抗生物質・抗菌薬などの抗微生物薬は現代の医療において重要な役割を果たしており、感染症の治癒、患者の予後の改善に大きく寄与してきました。その一方で、抗微生物薬の使用量が増大していくにつれて、その薬剤が効かなくなる菌が発生するという「薬剤耐性(AMR)」の問題をもたらしてきました。この問題に対して有効な対策が講じられなければ、※2050年には全世界で年間1,000万人が薬剤耐性菌により死亡することが推定されています。

静岡県では、平成30年度に静岡県感染症発生動向調査委員会薬剤耐性(AMR)対策部会を設置し、薬剤耐性菌に関する情報収集や解析評価、適正使用の啓発など効果的な対策を推進しています。

本ページには、静岡県感染症発生動向調査委員会薬剤耐性(AMR)対策部会の取組みとして、静岡県の抗菌薬使用量、耐性菌検出率、細菌の感受性率(各

外来での抗菌薬適正使用手引き(成人版) -県内耐性率を参考に-

[外来での抗菌薬適正使用手引き\(成人版\) \(PDF: 160KB\)](#)

都道府県別抗菌薬販売量集計データについて

国立国際医療研究センター病院AMR臨床リファレンスセンターより、[都道府県別抗菌薬販売量集計データ\(外部サイトへリンク\)](#)が公開されています。

2018年4月に2013年から2016年のデータが公開され、今後も継続的に公表されていく予定です。

[【結果と解説】 \(PDF: 97KB\)](#)

2018年公開資料

- ①用語の解説
- ②アクションプランについて
- ③静岡県の抗菌薬使用量
- ④県のアンチバイオグラムに基づく「外来抗菌薬適正使用の手引き」

外来抗菌薬適正使用の手引き：成人

1. 感染症診療の原則
2. アンチバイオグラム
3. 抗菌薬不要な疾患
 - 急性上気道炎
 - 胃腸炎
4. 咽頭炎
5. 市中肺炎
6. 膀胱炎、腎盂腎炎
7. 蜂窩織炎

AASと開業医 3名で作成

今後の展望 1

- ・ ホームページのコンテンツ充実
 - ー 小児版の作成
 - ー 診療所に絞った抗菌薬使用量の評価
 - ー 疾患解説の動画

今後の展望 2

急性上気道炎外来患者における抗菌薬使用サーベイランスによる
地域比較と診療報酬改定の評価

Regional comparison of antibiotic use surveillance in acute upper respiratory
infection outpatient and evaluation of the revised medical fee

全国健康保険協会静岡支部 名波直治

Japan health insurance association shizuoka branch Naoharu Nanami

- ・ 健康保険協会静岡支部がシステム構築
- ・ レセプトから抗菌薬使用状況を評価
- ・ 地域、医療機関規模に分け比較が可能
- ・ 自施設の処方量をフィードバック
(他施設と比較)

今後の展望 3

2019年 ラグビーワールドカップ

2020年 オリンピック・パラリンピック

静岡開催

開業医や一般医療機関を受診する可能性も高い
安心して診療できるサポート体制構築を実現化

オリンピック効果 患者数増加/拡散リスクの見積もり

現時点の頻度	患者数増加のリスク	拡散のリスク
高 (3000件以上/年)	インフルエンザ 感染性胃腸炎 結核 水痘	水痘 インフルエンザ 感染性胃腸炎
中 (100-3000件/年)	風疹 麻疹 デング熱 細菌性赤痢	麻疹 風疹 デング熱
低 (10-100件/年)	侵襲性髄膜炎菌感染症 チクングニア熱	チクングニア熱 侵襲性髄膜炎菌感染症
非常に低い (10件以下/年)	中東呼吸器症候群(MERS)	MERS 鳥インフルエンザ SARS

和田ら 日医雑誌. 145(7) 1459-1468

マスギャザリングに備えた対応

- ・ 症状から考える鑑別疾患フローチャート
- ・ 各言語の問診表
- ・ 疾患の解説資料（動画）
- ・ 専門家の相談システム

保健所・衛生研究所・医師会・機関病院の連携
が必須

2年間活動を続けて

- 仲間を作りモチベーション維持
- 無理をしない活動計画
- 人の縁で輪は広がる
- あきらめない、怒らない
- 制限するのではなくサポートする
- 何が求められているかは地域により異なる



ご清聴ありがとうございました

静岡に感染症の正しい文化を
根付かせたい